

広 報

こだま

2012

Vol.10

【栗田病院 広報誌】

特集

最新の精神医療

第2回「統合失調症について」

治療アラカルト

フォーカス くりた人

看護師 田端 一成

新人職員紹介

有朋会・理念

- 1 私達は、明るく開放的な雰囲気をつくり、様々なこころの悩みに応えることができる法人を目指します。
- 2 私達は、患者様、利用者様一人一人を尊重した支援を行い、共に歩んでいきます。
- 3 私達は、情熱と誇りを持って質の高い医療・介護を提供します。



医療法人社団 有朋会
栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL: 029-298-0175 Mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com
<http://www.yuhokai-kuritah.com/>



第2回「統合失調症について」

第2回は、『統合失調症』についての特集です

背景

統合失調症とは「主として思春期に発病し、特徴的な思考障害、自我障害などを主徴とし、多くは慢性的に経過する原因不明の精神病」とされます。その成因としてはもともと何らかの生物学的な原因による病的素因ないし中枢神経機能の脆弱性があり、環境因（心因）を誘因として症状を形成するとする考え（脆弱性・ストレスモデル）が有力です。

その病的素因や脆弱性などを説明すべく様々な研究



副院長 安部 秀三

究が行われています。遺伝因子だけでは発症リスクを十分に説明できず、胎生期・周産期の侵襲因子による発病可能性についてもごく一部にすぎません。現在のところこれらの発病因子は不明ですが、症状・病態の発現については化学的な神経伝達の異常が関わっていると想定されています。そのうち、最も広く受け入れられている仮説はドパミン仮説と呼ばれるもので、中脳辺縁系という脳領域でドパミン神経系の過剰活動が病態発現に関わっているというものです。現在ではドパミンだけでなくセロトニン、グルタミン酸、GABAなど様々な神経系が症状形成に関与しているものと考えられています。

特徴・症状

症状は多彩であり、一般的にはいくつかのサブグループにわけて説明されます。よく用いられるのは陽性症状、陰性症状という分け方です。前者は健常者にはなくて患者にのみ余分に存在する産出性の症状群をいい、幻覚、妄想、思考伝播、思考吹入、思考奪取、興奮などです。後者は健常者にも認めるが患者に欠如あるいは著しく低下している症状群をいい、情緒的ひきこもり、情動の平板化、意欲の低下、思考の貧困などです。このほかうつや躁状態などを気分の障害として分ける場合もあります。また最近では、作業記憶障害、注意障害、言語・空間の学習

記憶障害、情報処理能力の遅延などといった認知機能の障害も注目されています。

これらの症状のうち、急性期といわれる病勢の悪化時に優勢となる症状の多くは陽性症状であり、状態像としては幻覚妄想状態や精神運動興奮状態と呼ばれる状態を呈し、その重症度によつては入院治療が必要になります。一方慢性期状態には陰性症状が前景となり、意欲の低下や引きこもり活動性が低下するのが一般的です。

治療について

主な治療法としては精神療法、薬物療法、リハビリテーションなどです。精神療法とは治療者が患者の悩みや不安をよく聴き支持することにより、患者の気持ちを楽にさせ、精神的に自立できるようにし回復させていく治療法です。医師患者間での信頼関係を構築するうえで必須となるものです。薬物療法は脳に働く薬物により精神状態を安定しようとするものです。統合失調症の症状に効果がある一群の薬剤を抗精神病薬といいます。統合失調症の病態にドパミンなどの神経伝達物質の異常が考えられており、抗精神病薬はこの異常を調整する薬理作用を有します。当然薬物治療には効果もありますが、副作用も出現しうるため、よりよい薬物療法のためには治療者患者間でのコミュニケーションが非常に大切です。リハビリテーションは作業療法、STなどにより生活リズムを整え日常生活に必要な集中力、活動性、生活技能を改善していくものです。これらの治療法を継続的に行うことで病前の生活能力への回復を目指していきます。

治療アラカルト

統合失調症に対して行っている当院の取り組みについてご紹介します

サクラセミナー



精神科急性期治療病棟 看護師 加藤 由果子

サクラセミナーでは、統合失調症の患者様に対する心理教育を行っています。このプログラムには、医師を始めとし、看護師・臨床心理士・精神保健福祉士・作業療法士・薬剤師等の多職種が関わり、患者様が自らの病気と向き合えるようになる支援をしています。

全部で7回に分け、①統合失調について②症状について③服薬について④薬を飲む事について⑤注意サインについて⑥調子が悪い時のサインについて⑦まとめの構成で行っています。それぞれの回ごとに、医師や薬剤師、臨床心理士の講義を受けたり、DVDを見てディスカッションを行い、まとめは看護師が担当となります。

入院や疾患を受け入れられない医療保護入院の患者様が多く、セミナー前半にはさまざまな感情を見せます。そこで、多職種で関わる事により、それぞれの視点から患者様を捉え、その時点での患者様の思いや問題点を見つけたし共有することにより、次回へと繋がっています。

セミナー前後で患者様の発言に変化が見られる方もおられるため、患者様が自身の病気について考えることへのきっかけになっていると考えます。まだ

課題はありますが、セミナーが病気の再燃（入院）防止につながることを信じ、今後も活動していきたいと思っています。

新規入院患者ミーティング

入院後、4週間以内の患者様を対象にした入院治療の案内役のプログラムです。週に1回40分間のミーティングを実施しています。スタッフは、医師、看護師、作業療法士、臨床心理士、精神保健福祉士が担当しています。患者様の対象人数もその都度違います。ミーティングの内容は「入院治療ガイド」というものを事前に渡し見てもらい、治療プログラムの中で分からないことや、病棟内で困っていることや感じていること等を話し合います。

初参加の方には、「入院に至った経緯」と、「自分自身どういうところを良くしていきたいか」を発言していただきます。中には、入院という状況を受け入れられず、病棟生活の様々な不安や不満を口にする患者様もありますが、私たちはその言葉の裏にある患者様の心理的な部分や入院前の生活の問題等にリンクさせながら考えていきます。また、入院初期の患者様の不安や疑問に対して先輩患者様からのアドバイス等もあり、患者様同士支え合う気持ちがあることを感じることもあります。

ミーティング終了後には必ずスタッフのみのレビューミーティングを行い、患者様理解を深めています。



精神科急性期治療病棟 精神保健福祉士 伊藤 智子

家族教室

当院では、平成23年12月より、統合失調症の患者様のご家族を対象に、家族教室を開始しています。この教室は、病気に関する知識や患者様との接し方について、講義やグループワークを通じて学ぶ場として、毎月第1土曜日に開催しています。現在、1クール全2回という形式で運営しています。

講義は、第1回は医師より「病気について」というテーマで、第2回は作業療法士・精神保健福祉士より「家族の関わり方について」というテーマで、それぞれ行っています。

また、ただ知識を伝えるだけではなく、ご家族どうしの交流にも重点を置いています。講義後に約1時間のグループワークを実施し、講義の感想や統合失調症の家族を抱える思いについて話し合っています。

これまでに2クールを実施し、参加されたご家族からは、「皆同じように悩んでいることが分かった。」「自分だけが苦しいのではないことが分かって良かった。」「いろいろな話を聞くことができて参考になった。」「今後もぜひ続けてほしい。」などのご意見・ご感想を頂きました。

開始したばかりのプログラムで、進め方等についてはスタッフも悩むことが多くありますが、これらのご家族の声を大切にしながら、よりよい教室の運営を目指していきたいと思っています。



外来リハビリテーション 精神保健福祉士 池永 潤

フォーカス

くりた人

看護師 田端 一成

当院で勤務している現場職員の声をお伝えします



院内ではどのような活動(プログラム)を行っていますか？

私は、当院の急性期病棟で勤務しています。急性期病棟では患者様の置かれる状況に合わせ、入院されて不安も多い時期の患者様には不安や疑問に答える新規入院患者ミーティング、退院が近い人外出泊の始まった人には退院に向けて社会資源の紹介や退院後の思いを表出するステップアップフライデーというミーティング等各種治療プログラムを行っています。その中でも私は主に統合失調症の患者様を対象としたサクラセミナーという疾患についての勉強会を行うプログラムに参加しています。

統合失調症では病識そのものが障害を受けやすい疾患です。セミナーを行う中で疾患を知るにつれ、「私は違う」「病気じゃない、一緒じゃない」という思いから参加されなくなる方や怒りや否認という感情を出す方もいます。多くの患者様が、自分がなぜ入院したのかわからず、なぜ家族は自分を入院させるのだという失望感や疑念を持たれています。

看護師の役割は患者様の味方であること、そして病感を持ち治療に臨めるように思いを繰り返し伝えていくことだと考えます。

時には真剣に向き合うこともあります。そういった関わりも患者様と信頼関係を築く事に繋がりますし、患者様に本来の自分をとどしめてもらいたいという思いを胸に治療的関わりを持っていきたいと考えています。

患者様との関わりでなにか心がけていることはありますか？

私が患者様対応で心がけていることはまず挨拶です。患者様の名前を呼び挨拶をする。基本的な事ですが、患者様との信頼関係を築く上で最も重要視しています。また、患者様が声をかけやすい、相談しやすいと思えるような雰囲気を作るように心がけています。そのためには日々の挨拶、関わりが重要だと思っています。自分の名前が呼ばれる、この人は私を知っている、気にかけてくれている、そのように感じてもらえるだけでも良いと思います。人に相談するという事は容易な事ではないと思いますし、思い切って相談して返ってきた答えが、必ずしも良い方向に向くわけではなく、人によってはそれが嫌に感じることもあります。「こうしたほうが良いよ」「頑張らないよ」という声掛けで傷つくこともあり、やっとの思いで相談したのに放り出された様な気持ちになったりもすると思います。

まずは患者様の思いと向き合い、話を聞き受け止めます。答えなんてものは簡単に出なくて当然ですが、それでも患者様と共に悩み、思いを共有し、考えてくれる人がいるんだという思いを持つていただけたら幸いです。一方通行な関わりではなく、一人ではないんだよ、心配している人がいるんだよと思ってもらえればと日々考えながら行動するように心がけています。

印象に残る事例を教えてください。

最近特に印象に残った事例は「話しやすい人だね。」「だって放つてたでしょ。」です。これは同じ患者様が言われた言葉です。その患者様とは日々の入院生活の関わりの中で話す機会が増え、言いくい不安や不満を話されるようになりました。病状が回復してきたのもあると思いますが、日々の関わりが実を結んだのかなとも感じました。ある日、その患者様に声をかけると「話しやすい人だね。」と呟かれまし

たので、私は、「ありがとう。最初のうちはあまり話さなかったけどいつの間にかよく話すようになりましたね。」と声をかけました。すると「だって放つてたでしょ。」と返事が返ってきました。患者様の顔は一見笑っていましたが、私は寒気がするようなショックを受けました。それを感じたのか患者様は「うそ、うそ。」と笑っていましたが、その時に患者様の持つ孤独感を改めて感じました。私は、その患者様と向き合ったのはいつだろうと振り返りました。

その患者様には「放つとかれた」という思いがずっとあったのかと思うと胸が締めつけられる思いでした。前向きにこの言葉をとれば、それだけ信頼して話してくれたとも考えられますが、これからずっとと考えさせられる、心に残る事例でした。

将来の目標を教えてください。

将来というよりも継続した目標ですが、患者様に話しやすい看護師だと思ってもらう事です。精神科の看護師として雰囲気、言葉遣い、日々の自分の動きに注意を払い目標に向かっていきたいと思っています。

不安だけでなく内服による副作用を表出できず苦しんでいる患者様、また自分で伝えられない患者様がいらっしやいます。患者様の苦しみに気付き、適切な治療に繋がれる目を持つてるように日々努力をしていきたいと思っています。目の次は耳です。患者様の言葉を聴くという事を学んでいきたいと思っています。精神科で働き、人の話をよく聴くという事がどれ程難しいことかと痛感しました。経験も浅いですがいずれは認定看護師の資格を取れたらと思います。

もう一つが、何かあったらまた早め入院したいと思ってもらえるような関わりを持つ事です。再入院は必ずしも悪い事とは考えません。患者様に調子を崩す前に、患者様本人または家族が不調のサインに気づき受診に繋がればと思います。この病院の職員なら安心して入院生活が送れる、一緒に治療したいと思えるように関わりたいです。そのためにも入院中に患者様がアドヒアランスを獲得出来るような関わりを持てたらと考えています。

新人職員紹介

平成24年4月2日に当法人で新人職員入社式典を行いました。
今年度は看護師3名、精神保健福祉士1名、作業療法士1名の計5名が入社しました。



新人作業療法士からみた栗田病院の魅力と今後の意気込みを教えてください

栗田病院の作業療法部では、入院している患者様から地域で生活する患者様まで幅広く支援する環境が整っています。その中で、臨床スピリットに沿い、全職種が患者様一人ひとりに合わせたアプローチをするという同じ目標を目指すことで、チームが一丸となり、より良い支援、そして作業療法を提供することができるとしています。

これから、作業療法士として患者様と接していく上で、疾患への理解、知識を深め、日々成長していきたいと思っています。

また、諸先輩方を見習い、ご指導を受け、しっかりとスタッフ同士でコミュニケーションを取り合いながら、より良い支援ができるよう努力したいと思います。



作業療法士 櫻井美来

新人精神保健福祉士からみた栗田病院の魅力と今後の意気込みを教えてください

栗田病院は、精神障害を抱える方が地域で暮らすために様々な支援体制が充実していることや、法人が一体となり質の高い医療を展開されていることから、地域において重要な存在になっているところに魅力を感じています。

精神保健福祉士として、患者様が社会でご本人らしく生活して頂けるように支え、相手を思う気持ちを大切に、患者様と共に歩んでいく姿勢を持ち続けていきたいです。また、患者様の持つ可能性を広げていけるよう、患者様の思いに敏感になること、心身共にフットワーク良く行動していくことを心掛けていきたいと思っています。

そして、常に向上心を持ち、自己研鑽に励んでいきたいと考えています。
よろしく願います。



精神保健福祉士 前田 絵梨

診療案内

外来担当医一覧表

受付時間 8:00 ~ 15:30 診察時間 9:00 ~ 15:30

	診察室	月	火	水	木	金	土
午 前	1 診	安部	片野	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	堤	高橋	堤	蘭部	堀	第 3,5 週 吉川 第 2 週 鈴木 第 4 週 安部
	3 診				木滝		高橋
	5 診						蘭部
午 後	1 診	栗田				第 2,4 週 鈴木 もの忘れ外来	休診
	2 診		袖山	木滝		第 1,3,5 週 鈴木 第 2,4 週 安谷屋	
	3 診		佐藤			渡辺	

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。

※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。
※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

*外来は完全予約制になります（内科は除く）。電話対応時間 9:00 ~ 17:00 ■=内科
*当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します。
予約電話対応時間 月～土（祝日を除く）9:00 ~ 17:00 TEL.029-298-0175

関連施設

認知症専用デイサービス

「クリクリ瓜連」

〒319-2103 茨城県那珂市中里1365-7
TEL.029-270-9550 FAX.029-270-9558

「クリクリ豊喰」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰28-9
TEL.029-353-2056 FAX.029-353-2057

「クリクリ住吉」

〒310-0844 茨城県水戸市住吉町20-6
TEL.029-248-1001 FAX.029-248-0215

「クリクリ市毛」

〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2
TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263

「クリクリ青柳」

〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3923-5
TEL.029-231-7066 FAX.029-231-7067

グループホーム・ケアホーム

「くりの木荘」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1
TEL.029-295-7652

ケアホーム

「くりくり」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1
TEL.029-295-7680 FAX.029-295-7681

「くりあん」

〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2
TEL.029-231-2280 FAX.029-231-2281

自立訓練(生活訓練)事業所

「くりの実」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL&FAX 029-295-1834

アクセスマップ

